

コア歯学教育演習基礎

責任者・コーディネーター		生化学講座（細胞情報科学分野） 石崎 明 教授		
担当講座（分野）		歯学部基礎講座（全分野）、歯科放射線学分野、予防歯科学分野		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習
期間	通期		前期 37.0時間	—
			後期 46.0時間	—

学修方針（講義概要等）

3年次前期までに履修する歯科医学（解剖学、組織学・発生学、生理学、生化学、病理学、薬理学、微生物学・免疫学、歯科理工学、衛生学・公衆衛生学、予防歯科学、放射線歯科学）における重要点の理解度を深めるため、3クール制の集中講義やICTを活用した繰り返し演習を実施する。本科目の修得により、4年次に履修するコア歯学教育演習を受講するための基礎学力を養い、臨床参加型実習を履修するために必要且つ十分な基礎歯科学的知識基盤の確立を目指す。

教育成果（アウトカム）

3年次前期までに履修する歯科医学（解剖学、組織学・発生学、生理学、生化学、病理学、薬理学、微生物学・免疫学、歯科理工学、衛生学・公衆衛生学、予防歯科学、放射線歯科学）についてICTを活用した演習試験をCBTと近い環境で体験することにより、歯科医学専門科目を復習し、歯科医学のコアで修得すべき内容が実際に身についていることを3年次の段階で早期に再確認できる。また、診療参加型臨床実習を行うに足る十分な基礎歯科医学領域の知識を確実に身につけることができる。

（関連するディプロマポリシー：4）

到達目標（SB0s）

診療参加型臨床実習を行うに足る歯科医学の知識の修得とその応用力が身についているかどうかは、第4学年で受験する歯学生共用試験CBTに合格することで証明される。そこで、コア歯学教育演習基礎においては、第1学年後期から第3学年前期までの基礎科目を中心とした歯科医学の重要事項の内容について確認すると共に、その基本知識を臨床実習の現場で応用できる学力を獲得することを目標とする。具体的には、解剖学、組織学・発生学、生理学、生化学、病理学、薬理学、微生物学・免疫学、歯科理工学、衛生学・公衆衛生学、予防歯科学、放射線歯科学における基本的知識を応用して、診断や治療に役立てられることを目標とする。

事前事後学修の具体的内容及び時間

事前学修（予習）は、シラバスに記載されている各回の演習・試験内容に関し教科書を用いて調べるものとし、各回30分程度を要する。事後学習は、各回の演習・試験内容について、授業当日の配布資料等を復習して、理解を深めるものとし、各回45分程度を要する。

（事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表①

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
演習	4/4 (金)	1 2		到達度確認試験①	
講義	4/11 (金)	1 の 1	武本真治教授 (医療工学講座)	2年次歯科理工学の総復習 2年次に学習した内容を到達度確認試験を通して、復習する。	1. 材料の機械的、物理的、化学的特徴および生物学的安全性を説明できる。 2. 鋳造の手順を説明できる。 3. 鋳造で用いる材料の特徴を説明できる。 [B-1全般, B-2全般, B-3全般] 事前学修：到達度確認試験で正答が見出せなかった問題について、教科書や2年次の授業で配布された資料をもとに正答を見出しておく。所要時間10分程度。 事後学修：講義の内容について、授業ノートや配布資料をもとに復習し、到達度確認試験で明確化された弱点について、補強しておく。所要時間15分程度。
講義	4/11 (金)	1 の 2	三浦利貴助教 (微生物学講座・分子微生物学分野)	2年次微生物学・免疫学の総復習 2年次に学習した内容を到達度確認試験を通して、復習する。	1. 細菌・真菌・ウイルスの特徴を説明できる。 2. 病原微生物の性状を説明できる。 3. 全身の免疫機構を説明できる。 [A-4全般] 事前学修：到達度確認試験で正答が見出せなかった問題について、教科書や2年次の授業で配布された資料をもとに正答を見出しておく。所要時間10分程度。 事後学修：講義の内容について、授業ノートや配布資料をもとに復習し、到達度確認試験で明確化された弱点について、補強しておく。所要時間15分程度。
講義	4/11 (金)	2 の 1	横田聖司講師 (生化学講座・細胞情報科学分野)	1年次後期～2年次生化学の総復習 基礎領域の理解不足項目について補習し、到達度を確認・認識する。	1. 試験結果等を参考に基礎領域の理解不足項目を補習する。 [A-1全般] 事前学修：到達度確認試験で正答が見出せなかった問題について、教科書や2年次の授業で配布された資料をもとに正答を見出しておく。所要時間10分程度。 事後学修：講義の内容について、授業ノートや配布資料をもとに復習し、到達度確認試験で明確化された弱点について、補強しておく。所要時間15分程度。

講義	4/11 (金)	2 の 2	加藤哲也助教 (生理学講座・病態 生理学分野)	2年次生理学の総復習 2年次に学習した内容を 到達度確認試験を通し て、復習する。	1. 循環器の役割について説明できる。 2. 神経系について概説できる。 3. 体液及び血液の組成・性質について説明できる。 [A-3全般] 事前学修：到達度確認試験で正答が見出せなかった問題について、教科書や2年次の授業で配布された資料をもとに正答を見出しておく。所要時間30分程度。 事後学修：講義の内容について、授業ノートや配布資料をもとに復習し、到達度確認試験で明確化された弱点について、補強しておく。所要時間45分程度。
講義	4/18 (金)	1 の 1	藤原尚樹教授 (解剖学講座・機能 形態学分野)	肉眼解剖学・歯の解剖学 の基本的内容の総復習 2年次に学修した肉眼 解剖学と歯の解剖学に ついて到達度確認試験 を通して、復習し弱点 領域を確認する。	1. 口腔内臓の構造を機能との関係から説明できる。 2. 口腔内臓各部位の神経支配と栄養血管について説明できる。 2. 歯の解剖学特徴と好発する異常形態について説明できる。 [A-3全般] 事前学修：到達度確認試験で正答が見出せなかった問題について、教科書や2年次の授業で配布された資料をもとに正答を見出しておく。所要時間15分程度。 事後学修：講義の内容について、授業ノートや配布資料をもとに復習し、到達度確認試験で明確化された弱点について、補強しておく。所要時間25分程度。
講義	4/18 (金)	1 の 2	池崎晶二郎講師 (解剖学講座・発生 生物・再生医学分 野)	2年次組織学の総復習 2年次に学習した内容を 到達度確認試験を通し て、復習する。	1. 人体を構成する細胞の種類とその特徴を概説できる。 2. 人体を構成する組織の種類とその特徴を説明できる。 3. 顎・顔面領域の形成過程やそれらの組織像にみられるさまざまな構造について理解できる。 [A-2全般, A-3全般] 事前学修：到達度確認試験で正答が見出せなかった問題について、教科書や2年次の授業で配布された資料をもとに正答を見出しておく。所要時間15分程度。 事後学修：講義の内容について、授業ノートや配布資料をもとに復習し、到達度確認試験で明確化された弱点について、補強しておく。所要時間25分程度。

講義	4/18 (金)	2 の 1	田村晴希講師 (薬理学講座・病態制御学分野) 2年次で学んだ薬理学総論と各論の復習 2年次で学修した内容を到達度確認試験を通じて総復習する	1. 薬物の作用の仕方が説明できる 2. 薬物動態について説明できる。 3. 薬物の扱いについて説明できる。 4. 薬物の副作用について説明できる。 5. 自律神経系の仕組みと関連受容体、薬物について説明できる。 [A-6全般] 事前学修：到達度確認試験で正答が見出せなかった問題について、教科書や2年次の授業で配布された資料をもとに正答を見出しておく。所要時間15分程度。 事後学修：講義の内容について、授業ノートや配布資料をもとに復習し、到達度確認試験で明確化された弱点について、補強しておく。所要時25分程度。
講義	4/18 (金)	2 の 2	岸 光男教授 (口腔医学講座・予防歯科学分野) 2年次衛生・公衆衛生学の総復習 2年次で学修した内容を到達度確認試験を通じて総復習する。	1. 疫学調査と適用の組合せを列挙できる。 2. 基礎的な統計指標と解析法を説明できる。 3. 代表的な人口統計指標を算出できる。 4. 感染症と非感染症の予防の差違を説明できる。 5. 環境の人体への影響を概説できる。 [C-4-5, C-5全般, C-6全般] 事前学修：到達度確認試験で正答が見出せなかった問題について、教科書や2年次の授業で配布された資料をもとに正答を見出しておく。所要時間15分程度。 事後学修：講義の内容について、授業ノートや配布資料をもとに復習し、到達度確認試験で明確化された弱点について、補強しておく。所要時間25分程度。
講義	4/25 (金)	1 の 1	入江太朗教授 (病理学講座・病態解析学分野) 2年次病理学の総復習 2年次に学習した内容を到達度確認試験を通して、復習する。	1. 病理学総論で学んだ重要事項について説明できる。 [A-5全般] 事前学修：到達度確認試験で正答が見出せなかった問題について、教科書や2年次の授業で配布された資料をもとに正答を見出しておく。所要時間30分程度。 事後学修：講義の内容について、授業ノートや配布資料をもとに復習し、到達度確認試験で明確化された弱点について、補強しておく。所要時間45分程度。

講義/演習日程表②

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	7/4 (金)	2	高橋徳明講師 (口腔顎顔面再建学 講座・歯科放射線学 分野)	3年前期講義内容の復習 前期講義の内容を補完する。	1. 放射線の基礎を理解する。 2. エックス線の発生原理を理解する。 3. デジタルX線撮影の種類を理解する。 4. 口外法撮影の種類、特徴を理解する。 5. CT, MRI, US等の特殊検査を理解する。 [A-1-1-1, D-2-5全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	7/11 (金)	1	大津圭史教授 (解剖学講座・発生 生物・再生医学分 野)	組織学総論 人体を構成するさまざまな細胞、組織の特徴について理解できる。	1. 人体の構造の概略について説明できる。 2. 人体を構成する組織の種類とその特徴を説明できる。 3. 人体の構造と細胞の関係について概説できる。 [A-3-1全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	7/11 (金)	2	加藤哲也助教 (生理学講座・病態 生理学分野)	2年次生理学の総復習 (1) 2年次の生理学で履修した学習内容の到達度を、到達度確認試験を通して確認・認識する。	1. 循環器・呼吸器・消化器・腎泌尿器・内分泌器官の構造/機能を説明できる。 [A-3全般] 事前学修：到達度確認試験で正答が見出せなかった問題について、教科書や2年次の授業で配布された資料をもとに正答を見出しておく。所要時間30分程度。 事前学修：講義の内容について、授業ノートや配布資料をもとに復習し、到達度確認試験で明確化された弱点について、補強しておく。所要時間45分程度。

講義	7/18 (金)	1	横田聖司講師 (生化学講座・細胞 情報科学分野)	統合講義 I 遺伝子・細胞構造・生 体構成成分について理 解する	1. 遺伝子の構造と機能及び遺伝の 基本的機序が説明できる。 2. 細胞の基本構造と機能及び増殖 と分化機構を説明できる。 3. 糖質・脂質・タンパク質の構造 と代謝について説明できる。 [A-1-2全般, A-1-3全般, A-1-4全 般] 事前学修：1年次後期～2年次生化学 講義で配布された資料について見 直しておくこと。所要時間30分程 度。 事後学修：講義プリントの復習を行 うこと。所要時間45分程度。
講義	7/18 (金)	2	中村正帆教授 (薬理学講座・病態 制御学分野)	薬理学I 薬物の作用機序、有害 反応、薬物動態、臨床 適応	薬物の作用機序、有害反応、薬物動 態、臨床適応を説明できる。 [A-1-6-1全般, A-1-6-2全般, A-1- 6-3全般] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間30分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明でき るようになること。所要時間45分程 度。
講義	7/25 (金)	1	三浦利貴助教 (微生物学講座・分 子微生物学分野)	1. 微生物学総論 2. 細菌学各論 微生物の性状と病原細 菌による感染症および その病原因子を理解す る。	1. 微生物の構造・性状を説明でき る。 2. 感染の概念と感染症を説明でき る。 3. 病原細菌の性状を説明できる。 [A-4-1全般] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間30分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明でき るようになること。所要時間45分程 度。
講義	7/25 (金)	2	入江太郎教授 (病理学講座・病態 解析学分野)	1. 病理総論前半 病因論・代謝障害・循 環障害について理解す る。	1. 病理学序論、病因論について説 明できる。 2. 細胞傷害の機序についてその概 略を説明できる。 3. 代謝障害についてその概略を説 明できる。 4. 循環障害についてその概略を説 明できる。 [A-5-1全般, A-5-2全般, A-5-4全 般] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間30分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明でき るようになること。所要時間45分程 度。

講義	7/25 (金)	3	藤原尚樹教授 (解剖学講座・機能 形態学分野)	1. 全身、頭頸部の骨学 2. 全身、頭頸部の筋学 全身、頭頸部を構成する骨の配置、形態的特徴、関節について理解する。 全身、頭頸部の筋の走行と支配神経について三次元的に理解する。	1. 頭蓋を構成する骨についてその周囲との関連性と形態を説明できる。 2. 全身の主要な骨の構成と筋の走行を説明できる。 4. 表情筋、咀嚼筋を含めた頸部の筋の走行と機能、神経支配について説明できる。 [A-3全般] 事前学習：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学習：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	8/22 (金)	1	佐々木かおり助教 (医療工学講座)	1. 歯科精密鑄造に用いる材料 2. 義歯床製作に用いる材料 歯冠修復物、義歯床の製作過程とそれに用いる材料の特徴を復習する。	1. 歯科精密鑄造の過程を説明できる。 2. 歯科精密鑄造で用いる材料の具備すべき特徴を説明できる。 3. 義歯床の製作過程を説明できる。 4. 義歯床で用いる材料の具備すべき特徴を説明できる。 [B-2全般, B-3全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	8/22 (金)	2	岸 光男教授 (口腔医学講座・予防歯科学分野)	1. 健康と疾病、障害の概念 2. 疫学総論 3. 歯科疾患・口腔衛生状態の指標 疾病や障害の概念に対応する社会制度を理解する。 疫学研究方法への理解を深める。 歯科疾患の特徴と疫学指標を理解する。	1. 疾病の自然史と障害、予防の関係を説明できる。 2. 社会保険と社会福祉のちがいを説明できる。 3. 疫学研究法の分類と適用を列举できる。 4. 代表的な疫学指標を算出できる。 5. 代表的な歯科疾患と口腔衛生状態の指標を列举できる。 [C-3全般, C-4全般, C-5全般, C-6全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
演習	9/5 (金)	1 2		到達度確認試験② * 前期試験期間中に実施	
	9/11 (金)	3		SGを通じての弱点補強	
	9/18 (金)	1		SGを通じての弱点補強	

講義/演習日程表③

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	9/22 (月)	1	高橋徳明講師 (口腔顎顔面再建学 講座・歯科放射線学 分野)	理解不足の領域を克服 する。 前期の講義内容について の理解を深める。	1. 放射線影響と組織感受性について理解し、説明できる。 2. 患者防護、医療従事者の防護について理解を深める。 3. 放射線治療の治療法、防護、副作用について理解を深める。 [D-2-5全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	9/22 (月)	2	三浦利貴助教 (微生物学講座・分子微生物学分野)	1. ウイルス学各論 2. 免疫学 ウイルスによる感染症およびその病原因子を理解する。 生体防御の仕組みを理解する。	1. ウイルスの性状を説明できる。 2. 免疫応答に関与する器官と細胞を説明できる。 3. 微生物の認識機構と排除機構を説明できる。 4. 自然免疫と獲得免疫を説明できる。 [A-4-1全般、A-4-2全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	9/25 (木)	3	佐藤泰生講師 (病理学講座・病態解析学分野)	1. 病理総論後半 免疫異常・感染症・腫瘍・奇形について理解する。	1. 免疫異常についてその概略を説明できる。 2. 感染症についてその概略を説明できる。 3. 腫瘍についてその概略を説明できる。 4. 奇形についてその概略を説明できる。 [A-4-1-3, A-4-2-6, A-5-1-1, A-5-5, 6] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。

講義	9/25 (木)	4	大津圭史教授 (解剖学講座・発生生物・再生医学分野)	発生学（一般、顎顔面） 人体の初期発生過程について理解する。 顎・顔面の形成について理解する。	1. 人体の初期発生過程を説明できる。 2. 顎顔面の発生過程を説明できる。 3. 歯、歯周組織の発生過程を説明できる。 [A-2全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	9/29 (木)	2	中村正帆教授 (薬理学講座・病態制御学分野)	薬理学II 薬物の作用機序、有害反応、薬物動態、臨床適応	薬物の作用機序、有害反応、薬物動態、臨床適応を説明できる。 [A-1-6-1全般, A-1-6-2全般, A-1-6-3全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	10/2 (木)	3	藤原尚樹教授 (解剖学講座・機能形態学分野)	1. 全身、頭頸部の脈管学のまとめ 2. 歯の解剖学 全身、頭頸部の動脈・静脈に関する走行経路や分布範囲について理解する。 歯の形態に関する基本的構造を理解する。	1. 外頸動脈とその枝の走行と分布範囲について説明できる。 2. 心臓の構造と周辺の血管との関係性を説明できる。 3. 診療に用いられる体循環の動脈、静脈の走行とそれらの連続性を説明できる。 4. 永久歯と乳歯の各歯種の基本形態と好発する異常形態を説明できる。 [A-3-1-4全般, A-3-4全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	10/2 (木)	4	佐々木かおり助教 (医療工学講座)	1. 歯科材料の機械的、物理的性質 2. 成形修復材料 歯科材料が具備すべき機械的、物理的性質を理解する。	1. 歯科材料の応力-ひずみ曲線を説明できる。 2. 歯科材料の熱的性質を説明できる。 3. コンポジットレジンの特徴を説明できる。 4. グラスアイオノマーセメントの特徴を説明できる。 [A-1-1-3, B-1全般, B-2全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。

講義	10/6 (月)	1	加藤哲也助教 (生理学講座・病態 生理学分野)	1. 味覚とは 2. 味覚の受容と伝導路 味覚の受容器官について学び、伝導路の詳細を理解する。	1. 特殊感覚における味覚の役割を説明できる。 2. 味蕾について説明できる。 3. 味覚の伝導路について説明できる。 [A-3-1-6全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	10/6 (月)	2	岸 光男教授 (口腔医学講座・予防 歯科学分野)	1. 統計分析法 2. スクリーニング 3. 人口統計 統計分析法を学修することにより、スクリーニング、人口統計への理解が深まる。	1. 統計学的分析法を説明できる。 2. スクリーニング検査を説明できる。 3. 人口統計を説明できる。 [C-6全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	10/9 (木)	1	横田聖司講師 (生化学講座・細胞 情報科学分野)	統合講義Ⅱ 1. 結合組織について理解する。 2. 硬組織について理解する。	1. 細胞外マトリックス・MMPについて説明できる。 2. 骨代謝のメカニズム・血清カルシウム調整について説明できる。 [A-1-5全般, A-3-1-2全般] 事前学修：1年次後期～2年次生化学講義で配布された資料について見直しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義プリントの復習を行うこと。所要時間45分程度。
演習	10/27 (月)	1 2		到達度確認試験③	
	12/4 (木)	3 4		SGを通じての弱点補強	

講義/演習日程表③

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	12/15 (月)	2	中村正帆教授 (薬理学講座・病態 制御学分野)	薬理学III 薬物の作用機序、有害 反応、薬物動態、臨床 適応	薬物の作用機序、有害反応、薬物動 態、臨床適応を説明できる。 [A-1-6-1全般, A-1-6-2全般, A-1- 6-3全般] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間30分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明できる ようになること。所要時間45分程 度。
講義	12/22 (月)	1 2	岸 光男教授 (口腔医学講座・予 防歯科学分野)	1. 環境保健 2. 健康と栄養 3. 感染症の予防 4. 地域保健総論・各論 社会と歯学の学修後に 公衆衛生を学び直すこ とで、知識相互の関連 への理解が深まる。	1. 主な環境指標を列举できる。 2. 食事摂取基準と食事バランスガ イドを説明できる。 3. 感染症の成立要因と要因ごとの 予防法を説明できる。 4. プライマリヘルスケアとヘルス プロモーションを説明できる。 5. 母子保健、学校保健、産業保 健、成人保健に係わる検診を列举 し、それぞれの特徴を説明できる。 [C-4-1-2, C-4-2全般, C-4-3全般, C-5全般] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間30分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明できる ようになること。所要時間45分程 度。
講義	1/5 (月)	1	高橋徳明講師 (口腔顎顔面再建学 講座・歯科放射線学 分野)	全範囲で理解力向上を 目指す。 3D前期・後期で実施し た講義の内容について の理解を深める。	1. 放射線の特徴についてまとめる ことができる。 2. 放射線を用いた歯科検査につい てまとめることができる。 3. 口腔領域の疾患における適応検 査を列举し、説明できる。 4. 口腔領域の疾患読影について疾 患の所見を列举し鑑別診断を挙げる ことができる。 [D-2-5全般, E-2-5全般] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間30分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明できる ようになること。所要時間45分程 度。

講義	1/5 (月)	2	藤原尚樹教授 (解剖学講座・機能 形態学分野)	1. 消化器の構造 2. 呼吸器の構造 口腔を含めた消化器の 解剖学的特徴を理解す る。 呼吸器、特に気道の解 剖学的特徴と機能につ いて三次元的に理解す る。	1. 口腔・咽頭領域の区分を説明でき る。 2. 口腔～直腸までの臓器の配列と特 徴を説明できる。 3. 鼻腔～咽頭、肺までの呼吸器の構 造と機能との関連性を説明できる。 [A-3-1-7全般, A-3-1-8全般] 事前学習：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間30分 程度。 事後学習：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明できる ようになること。所要時間45分程 度。
講義	1/5 (月)	3	加藤哲也助教 (生理学講座・病態 生理学分野)	1. 唾液の性質 2. 唾液の分泌機構 唾液の性質及び自律神 経支配による唾液分泌 機構の詳細について理 解を深める。	1. 唾液の性質を説明できる。 2. 唾液腺の支配神経について説明 できる。 3. 唾液の分泌機構を詳細に説明で きる。 [A-3-3-6, A-3-3-7] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間30分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明できる ようになること。所要時間45分程 度。
講義	1/7 (水)	1	武本真治教授 (医療工学講座)	1. 接着システム 2. 歯冠修復方法 歯冠修復方法を理解す る。	1. コンポジットレジン修復の手順 を説明できる。 2. 歯冠修復物の口腔内での装着方 法を説明できる。 [B-2-1, B-2-3, E-3-5-1全般] 事前学修：到達目標の内容について 各自調べておくこと。所要時間30分 程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内 容を復習し、その概要を説明できる ようになること。所要時間45分程 度。
講義	1/7 (水)	2	横田聖司講師 (生化学講座・細胞 情報科学分野)	統合講義Ⅲ 1. 唾液について理解す る。 2. 炎症について理解す る。 3. ペリクル・プラーク について理解する。	1. 唾液の作用について説明でき る。 2. 自然免疫と獲得免疫・ケミカル メディエーターについて説明でき る。 3. ペリクル・プラークの形成過 程、細菌による代謝を説明できる。 [A-3-3-6, A-5-5-2, D-3-2-4] 事前学修：1年次後期～2年次生 化学講義で配布された資料について 見直しておくこと。所要時間30分 程度。 事後学修：講義プリントの復習を行 うこと。所要時間45分程度。

講義	1/7 (木)	3	三浦利貴助教 (微生物学講座・分子微生物学分野)	1. 口腔細菌 口腔のフローラ、口腔細菌の性状およびう蝕・歯周疾患の成立・発症機序を理解する。	1. 口腔の常在微生物叢を説明できる。 2. 口腔微生物の性状を説明できる。 3. う蝕と歯周病の成立機序を説明できる。 [A-4-1全般、A-4-2全般、D-3-1-3-1、D-3-2-2, 3, 4、D-3-1-10-2、D-5-2-3-1] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	1/7 (水)	4	大津圭史教授 (解剖学講座・発生生物・再生医学分野)	口腔組織学 歯、歯周組織、口腔粘膜、顎関節、唾液腺の組織構造と特徴を理解する。	1. 歯、歯周組織、口腔粘膜、顎関節、唾液腺の組織構造と特徴について説明できる。 [A-3-3全般、A-3-4全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	1/8 (木)	2	入江太朗教授 (病理学講座・病態解析学分野)	1. 病理総論の要点 2. 口腔病理学の要点 病理学総論・口腔病理学の重要事項を整理し理解する。	1. 病理学総論で学んだ重要事項について説明できる。 2. 口腔病理学で学んだ重要事項について説明できる。 [A-5全般] 事前学修：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
	1/27 (火)	1 2		後期試験（総合試験） ＊後期試験期間中に実施	

教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	口腔解剖学 第2版	井出吉信ほか 編	医歯薬出版	2018年
教	図説 歯の解剖学 第2版	高橋和人ほか 著	医歯薬出版	1998年
参	イラストで分かる歯科医学の基礎 第4版	村上秀明、西村康、天野修 監修	末永書店	2021年
教	Ross組織学 原著7版	M. H. Ross, W. Pawlina 著、内山安男、相磯貞和 監訳	南江堂	2019年
教	口腔組織・発生学 第3版	前田健康ほか 編	医歯薬出版	2023年
教	カラーアトラス口腔組織発生学 第4版	明坂年隆ほか 著、磯川桂太郎、川崎堅三、柳澤孝彰 編	わかば出版	2016年
参	ネッター 解剖生理学アトラス 第7版	J. T. Hansen, B. M. Koepfen著、相磯貞和、渡辺修一 訳	南江堂	2022年
教	基礎歯科生理学 第7版	岩田幸一／井上富雄 船橋誠／加藤隆史 編	医歯薬出版株式会社	2020年
参	生理学テキスト 第9版	大地陸男 著	文光堂	2022年
教	図解よくわかる生化学 第6版	中島邦夫ほか 著	南山堂	2004年
教	口腔生化学 第6版	高橋信博、石崎 明ほか 著	医歯薬出版	2018年
教	Essential細胞生物学 原書第5版 訳書	Alberts Bほか 著、中村桂子、松原謙一 監訳	南江堂	2021年
参	スタンダード生化学・口腔生化学 第4版	池尾 隆ほか 編	学建書院	2023年
教	歯学生のための基礎病理学	高田 隆 監、入江太郎 他著	医歯薬出版	2024年
教	新口腔病理学 第3版	下野正基 他編	医歯薬出版	2021年
教	現代歯科薬理学 第7版	鈴木邦明 監修	医歯薬出版	2024年
教	口腔微生物学・免疫学 第5版	川端重忠ほか 編	医歯薬出版	2021年
教	スタンダード歯科理工学：生体材料と歯科材料 第7版	中嶋裕ほか 編	学建書院	2022年
教	新編歯科理工学 第6版	服部雅之／武本真治編	学建書院	2021年

教	新編 衛生学・公衆衛生学 第1版	安井利一ほか 編	医歯薬出版	2021年
教	口腔保健・予防歯科学 第 2版	山下喜久ほか 編	医歯薬出版	2023年
教	スタンダード社会歯科学 第8版	尾崎哲則ほか 編	学建書院	2023年
教	歯科放射線学 第7版	岡野友宏ほか 編	医歯薬出版	2024年
参	解説と例題でわかる歯科放 射線テキスト	勝又明敏 浅海淳一 田口明 森本泰宏ほか 編	永末書店	2021年

成績評価方法・基準・配点割合等

【到達度確認試験について】 ・到達度確認試験はマルチメディア教室PCを用いて実施する。 【後期試験受験資格について】 ・到達度確認試験を受験すること。 ・講義に規定数以上出席すること（前期・後期で各評価）。 ・指定された範囲のDESS演習を実施すること。 原則として以上を満たすことを受験資格とする。 【後期試験について】 ・総合試験形式により実施する。 【成績評価について】 ・到達度確認試験①～③、および後期試験の点数により総合的に評価する。
--

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

数ユニット毎に、到達度確認試験を実施する。正答できなかった問題について復習し、知識の定着を図る。到達度確認試験の結果については、SGの時間等を利用して教員から学生に対面形式でフィードバックする。 当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的